

各 関 係 機 関 御 中

石川県農林総合研究センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について

令和元年度病害虫発生予報第3号を下記のとおり送付します。

連絡先 石川県農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 病害虫防除室 電 話 076-257-6972 (直通) F A X 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp

病害虫発生予報第3号

(予報期間：6月下旬～7月上旬)

予報内容

水 稻

いもち病の発生は**並**と予想される。一旦発生すると急進展する恐れがある。発生状況の把握に努め、発病が認められたら直ちに防除する。

紋枯病の発生は**やや多**と予想される。前年に発生したほ場や茎数の多いほ場は多発する可能性がある。粉剤での防除は、イネの出穂前10～14日が適期である。

斑点米カメムシ類の発生は**多**と予想される。生息密度を下げるため、7月上旬まで生育場所となる農道、畦畔、休耕田および遊休地等の除草を徹底する。

大 豆

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。ウイルス病の発生を防止するため、アブラムシの発生を認めた場合は直ちに防除を実施する。

果 樹

カメムシ類の発生は**やや多**と予想される。発生を認めた場合は直ちに防除する。

アブラムシ類、ハダニ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

野菜・花き

スイカ炭疽病の発生は**やや多**と予想される。発生初期の防除を徹底する。

オオタバコガの発生は**多**と予想される。発生初期の防除を徹底する。施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。

ネキリムシ類の発生は**多**と予想される。は種時又は定植時の防除を徹底し、ほ場およびほ場周辺の除草をこまめに行う。

アブラムシ類の発生は**多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一薬剤を連用しない。

ハダニ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※ 病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。

6～8月は農薬危害防止運動期間です。

—気象予報—

1か月予報（令和元年6月6日付け 新潟地方気象台）

予報期間 6月8日～7月7日

[確率予報]

気温	低い	20%	、	平年並	40%	、	高い	40%
降水量	少ない	30%	、	平年並	30%	、	多い	40%
日照時間	少ない	30%	、	平年並	40%	、	多い	30%

[概要] 2週目は、低気圧や前線の影響を受けにくく、平年に比べ曇りや雨の日が少ないため、気温は高い見込みです。

・6月8日（土）～6月14日（金）

気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

・6月15日（土）～6月21日（金）

前線や湿った空気の影響を受けにくく、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

・6月22日（土）～7月5日（金）

前線や湿った空気の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

注 1) 発生量は平年比
2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、
(±) は好適・不適に関与しない要因を示す

1 水稻の病害虫

葉いもち

発生時期	7月上旬以降
発生量	並
予報の根拠	(1) BLASTAM感染好適条件の出現は平年並 (±) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 気温は平年並か高い (±)
防除上の注意事項	(1) 発病が認められた場合は、直ちに防除する。 (2) 穂肥は適正量を厳守する。

紋枯病

発生時期	垂直進展期は7月中旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 降水量はほぼ平年並 (±) (2) 気温は平年並か高い (±) (3) 茎数は多い (+)
防除上の注意事項	(1) 前年に発生したほ場や茎数の多いほ場は多発する可能性がある。 (2) 粉剤での防除は、イネの出穂前10～14日が適期である。 (3) 粒剤は薬剤によって散布適期が異なるので、使用薬剤の基準に従う。

斑点米カメムシ類

発生時期	本田侵入期は7月中旬以降
発生量	多
予報の根拠	(1) 雑草地における斑点米カメムシ類の発生はやや多 (+) (2) 気温は平年並か高い (+)
防除上の注意事項	(1) 生息密度を下げるため、引き続き7月上旬まで農道、畦畔、休耕田および遊休地等の除草を徹底する。

海外飛来性害虫 (主にセジロウンカ、コブノメイガ)

発生時期	多飛来期は7月上旬
発生量	やや多
予報の根拠	(1) セジロウンカは現在、未確認 (±) (2) コブノメイガは現在、未確認 (±) (3) 気温は平年並か高い (+)
防除上の注意事項	(1) 当面の防除は不要であるが、今後の情報に注意する。

フタオビコヤガ

発生時期	6月下旬以降 (第2世代幼虫)
発生量	並
予報の根拠	(1) フェロモントラップでの発生はやや少 (-) (2) 気温は平年並か高い (+)
防除上の注意事項	(1) 当面の防除は不要であるが、今後の情報に注意する。

2 大豆の病害虫

アブラムシ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は平年並か高い (+)
防除上の注意事項	(1) ウイルス病の発生を防止するため、アブラムシの発生を認めた場合は直ちに防除を実施する。

3 果樹の病害虫

ナシ黒斑病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (-) (2) 気温は平年並か高い (±) (2) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 発生を認めた場合は直ちに防除する。 (2) ポリオキシシンおよびジカルボキシイミド剤は耐性菌が県内に広く分布しているため、散布回数をそれぞれ年1回にとどめる。

ナシ黒星病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (-) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 気温は平年並か高い (±)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の薬剤防除を徹底する。

リンゴ斑点落葉病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (-) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 気温は平年並か高い (±)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の薬剤防除を徹底する。

リンゴ褐斑病

発生時期	7月中旬以降
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は未確認 (±) (2) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の薬剤防除を徹底する。

ブドウベと病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 大粒種 (ヨーロッパ系統) の発病に注意し、発生初期の防除を徹底する。

カキ炭疽病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 不定芽の除去に努め、降雨前後の薬剤防除を徹底する。

カメムシ類 (おもにクサギカメムシ)

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 予察灯での誘殺数は並 (±) (2) 気温は平年並か高い (+)
防除上の注意事項	(1) 発生を認めた場合は直ちに防除する。

アブラムシ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は平年並か高い (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ハダニ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は平年並か高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

シンクイムシ類

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) ナシヒメシンクイのフェロモントラップ誘殺数はやや少 (－) (2) 気温は平年並か高い (+)
防除上の注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。

4 野菜・花きの病害虫

灰色かび病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 気温は平年並か高い (－)
防除上の注意事項	(1) ほ場の排水に努める。

うどんこ病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 過繁茂を避ける。 (2) ほ場の排水に努める。 (3) 施設では換気に努めるが、過度の乾燥は避ける。

スイカ疫病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は未確認 (－) (2) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) ほ場の排水に努める。

スイカつる枯病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は未確認 (±) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 気温は平年並か高い (±)
防除上の注意事項	(1) 発病初期の防除を徹底する。 (2) ほ場の排水に努める。

スイカ炭疽病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生が見られている (+) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 気温は平年並か高い (±)
防除上の注意事項	(1) 発病初期の防除を徹底する。

メロンべと病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少ない (－) (2) 降水量はほぼ平年並 (±)

防除上の注意事項	(3) 気温は平年並か高い (±) (1) ほ場の排水に努める。 (2) 施設では換気に努める。
キュウリべと病	
発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少ない (－) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 気温は平年並か高い (±)
防除上の注意事項	(1) ほ場の排水に努める。 (2) 施設では換気に努める。
カボチャ疫病	
発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 気温は平年並か高い (±)
防除上の注意事項	(1) ほ場の排水に努める。
ネギさび病	
発生時期	連続発生
発生量	少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 気温は平年並か高い (±)
防除上の注意事項	(1) 発病初期の防除を徹底する。
キク白さび病	
発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 気温は平年並か高い (±)
防除上の注意事項	(1) 梅雨時の急進展を抑制するため晴れ間散布を徹底する。
オオタバコガ	
発生時期	増加期は7月中旬以降
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップでの誘殺数は多 (+) (2) 気温は平年並か高い (+)
防除上の注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。 (2) 施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。
アブラムシ類	
発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+)

防除上の注意事項 (2) 気温は平年並か高い (+)
(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ハダニ類

発生時期 連続発生

発生量 やや多

予報の根拠 (1) 現在の発生は並 (±)

(2) 気温は平年並か高い (+)

(3) 降水量はほぼ平年並 (±)

防除上の注意事項 (1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

アザミウマ類

発生時期 連続発生

発生量 やや多

予報の根拠 (1) 現在の発生は並 (±)

(2) 気温は平年並か高い (+)

防除上の注意事項 (1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ネキリムシ類

発生時期 連続発生

発生量 多

予報の根拠 (1) 現在の発生は多 (+)

(2) フェロモントラップでの誘殺数は多 (+)

(3) 気温は平年並か高い (+)

防除上の注意事項 (1) は種時又は定植時の防除を徹底する。
(2) ほ場およびほ場周辺の除草をこまめに行う。